

第20回昭和館運営有識者会議(持ち回り開催)

【全般】

- ・ (展示内容を、来館者として日本国民の生活の労苦だけを想定した)内向き(の展示)だけではなく、(外国の来館者にも理解してもらえるような)外向き(の内容)にしていく段階ではないのか。(類似施設との)交流(を持つこと)が必要。
- ・ 戦争(によってもたらされた)苦しみは(日本人も外国人も)皆同じ。
- ・ (リーフレットや音声ガイドだけではなく)英語版資料の充実を図って欲しい。

- 「伝わって初めて、伝えたことになる」と思うので、戦中・戦後の労苦を次世代に伝える施設(昭和館・しょうけい館)は、時間はかかるが、将来に向けて、施設側がその
- ・ 労苦を「伝えている」ことが来館者へ感じ取ってもらえるような展示となっているか、つまり「伝わる展示になっているか」かどうかを精査する転換期になっているのではないか。

【来館者等】

- ・ 入場者の合計数が、対前年比3.3%減(という結果)は気にするほどの数値ではない。

【資料の収集、保存】

- ・ 実物資料の収集はとても重要であり、(時が経過すると同時に入手困難になることも考えられることから)今のうちに収集しておいた方が良いという物もある。
 - ・ 視覚障害者への対応という点で、触れる展示などもあると良い。
- 多くの寄贈資料があるが、それらの整理整頓、保存はどのような状態なのか。
- ・ →各部において限られた人数ではあるが、書架や倉庫等に保存する等適切に対応している。
- ・ 展示できる資料の確保は、(確保するだけに留まらず)それら(資料にある背景)の説明が必要。ストーリーがあって、若年層への説明が重要。

【広報活動】

- ・ (リーフレットや音声ガイドだけではなく、昭和館展示内容を詳しく記載した)英語版の資料を作成してはどうか。アジア歴史資料センターでは、「英語アドバイザー」という英語専門のバイトがおり、週2～3回勤務して(資料作成、確認等をおこなって)いる。
- ・ (毎年発刊されている)「昭和のくらし研究」はとても役立つ資料なので、大学への送付数195という数が資料に記載されているが、全国の大学図書館数はもっとあるので、その全国へ配付して欲しい。

- ・ (今後整備される国の統合ポータル)「ジャパンサーチ」(内閣府)への参加に向けて、昭和館では(収蔵品のデジタルアーカイブ化を積極的に推進するため、デジタルアーカイブ化仕様の実装を加えたシステムの構築を行う等)どのように考えているのか。昭和館には多くの現物資料があるので、こちら(のアーカイブ対象施設)に載らないと、今後の(昭和館の活動の)広がりに欠けてしまうのではないだろうか。
 - 平成31年度予算、令和2年度と「昭和館におけるデジタルアーカイブ化の推進」として、システム構築の予算を要求しているが、財務省より他の事項が優先されている状況であり、令和3年度も引き続き予算要求を予定している。
- ・ (令和元年9月に発刊された)「昭和館 常設展示室ガイドブック」(の内容)がとても素晴らしい。(このガイドブックの)英語版があればなお良い。
- ・ 広報(活動)は都内(向け)は頑張っている、学校長会等への広報も充実していると感じる。(都内だけではなく)全国の小学校への広報(を広げること)は難しいか。
 - 地方展等に関わる県(の小学校等)には、積極的にリーフレット配付しているほか、文部科学省が主催する全国規模の会議に於いて、昭和館(及びしょうけい館、平和祈念展示資料館)のパンフレット等の配付を依頼している。
- ・ Twitterは(新しい情報を)発信(すること)が重要なので、定期的に「例えば毎週水曜日」といった具合に情報を更新すると良い。そうすることで、登録者はもっと増えると思う。
- ・ (現在小中学生の入場料は無料であるが、この)無料情報をもっとPRして(みて)はどうか。
- ・ 英語版(の資料)について(今現在作成されている)音声ガイドやパンフレットの英語版があること(存在)を分かってもらえれば良いのではないか。
- ・ 英語版資料の必要性はあるが、(正しい英語表記による資料解説等を進めていく)ことが重要であり、専門家による指導等は)かなり難しい。
(例:赤紙= red paper ではない。)

【証言映像】

- ・ 証言映像は(その)当事者が(経験した労苦を話す映像であり、直接その証言を聞くことが)良いに違いないが、それを聴く側(の年齢に)に合わせる、という方法もあるのではないか。次世代の語り部の力がものを言うのではないか。
 - 様々な年代の語り部が委嘱されており、聴く側の年齢層に相応しいその語り部の講話により、労苦について理解しやすい状況となっている。
- ・ (証言映像の収録については、)話の聞き取り方(寄贈資料の提供等があった場合に、その背景や状況等様々な事を聞き取る)ことがとても重要であり、(それらを含めて編集、作成して欲しい。)映像数は少なくとも内容が充実していれば良い。
- ・ (平成31年3月5日昭和館開館20周年記念オーラルヒストリー特別上映会の)仲代達也氏のオーラルヒストリーは素晴らしかった。あのような方をもっと積極的に取り入れて欲しい。

【語り部活動】

- 語り部は、当時の置かれた状況、真実を話すことが重要であり、架空のこと(話すこと)にならないよう、知識を身につける努力が必要。(昭和館の)過去に開催された企画展や図録も参考になるではないかと思う。
- (語り部は)若い世代には、その聴く側(の年齢層)に合わせた話し方も必要であり、今後は語り部の力が生きてくると思っている。

【アンケート】

- (「入場券をICカードで買えるようにしてほしい」という要望があったが、)ICカード利用については、是非ご検討いただきたい。
- しょうけい館では10代～80代と年代別の感想の記録の記載があり、各年齢層の来館者の思いが伝わってきた。(昭和館でも、年齢別に)意見をまとめる様な形でご検討いただけないか。江戸東京博物館では期間を区切って意見をまとめている。

【作文コンクール】

- このコンクールは来館促進等の効果があるのか。(今後、作文コンクールについて)どのように広報していけば来館促進に繋がっていくか等、今のやり方を見直していく必要があるのではないか。
- 学校には多方面から作文コンクールの依頼があるため、学校からみると、どのテーマを取り上げるか選定が難しい。

【ポスターコンクール】

- 学校では、その学校又は先生により取組方が違うであろう。また、都内の絵画教室等へリーフレットを配付してはどうか。

【常設展示室展示替え】

- 展示スペースが広がるのは良いが、通路等、説明員が来館者に説明するためのスペースは必要なので、そこが狭くならないのが望ましい。
- (「昭和17年の国民学校6年生との」『背くらべパネル』の(2階広場へ)設置はとても良いと思う。現在の6年生との比較が出来る。

【昨春の企画展】

- オリパラの企画展はとても良かった。しょうけい館とのコラボレーションも良かった。

【今春の企画展、写真展】

- (昭和館では、「国民生活の戦中・戦後の労苦を伝える」という目的があるが、そんな中で、)「SF」は切り口が良い。よくぞ(過去に描かれていた未来(=レトロフューチャーを)テーマにした、昭和館の新しい行き方のような感じで、なかなか良いと思う。

少し切り口を変えて、今春の企画展の中にある「タミヤのプラモデル」について調べて、今後展示してみてもどうか。プラモデルが無い時代、子ども達は代用品で何を作って遊んだのか、等。

- ・ →今回の絵画展に合わせて、プラモデル展示というも話が出たが、展示スペースや費用(借用料、輸送料)等からプラモデル現物展示は難しく、今回は箱絵画像のみを株式会社タミヤから借用した。株式会社タミヤの製品は、昭和館の取り扱う時代と重なり、子どものたちの人気を博した商品が多いので、今後、企画展等で現物資料を借用する可能性はあります。

- ・ 図録は作成するのか。
 - 作成しており、各委員の皆様には送付させていただきました。
- ・ 漫画の力は大きい、説得力がある。小中学生に情報を伝えるのにはとても有効。
- ・ 写真展の注釈、説明文が見直されて良かった。
- ・ 貴重な写真がこういう形で展示されることはとても良い。